第 180 回 東葛しぜん観察会

残された貴重な湿地とモミジを楽しもう

鈴木 護（松戸市）

日　時：2022 年 12 月 3 日（土）9 時 30 分～12 時 15 分　天気：曇り
場　所：大町自然観察園（市川市）
参加者：13 名（大人 12 名、子ども 1 名）、指導員 13 名、
担当指導員：山口・渋谷子・鈴木護

今回は市川市に残る貴重な湿地、大町自然観察園で開催です。平らな台地に切り込んでいる細長い谷で全長1.9㎞あります。台地の上面から10mあまりの高低差があります。

台地から湿地へ下りてみるとすぐの場所に湧水があります。水の流れは冷たそうでしたが、みんなで手をつけてみると思ったよりとても温かいという感想。水の流れている場所ではクレソンやセリ、土のところではトクサの群生、背の高くなったイタドリ、ジュズダマなどを観察。苔むした四阿の屋根の部分には通称モンローリップという地衣類を ルーペを使って観察。なるほど、名前の由来も分かった。カラスウリ、シロダモ、マユミの赤い実をあらためてじっくり見たり、他の樹木にリース状にからみつくスズメウリの実に感嘆。水路ではアメンボが気持ちよさそうに泳いでいる、というより浮かんでいる。指導員がそのアメンボの体型が他所でみるのとは違うことを教えてくれてその名をシマアメンボであると教わる。11時ごろ気温も多少上がり何より日差しが出てきました。クマノミズキ、ツリフネソウ、コウヤボウキ、コブシなどには名札があるので覚えやすい。ハンノキの林では、実際に枝を掴まえてみて、雄花、雌花、種のつき方を教わる。参加者からハンノキ花粉症の話も出ました。

いよいよ もみじ山に入場、この季節しか公開しないので、とてもいい機会です。緑、黄、赤が映える景色も見ごたえがあったけれど、ここで学ぼう、ここで遊ぼうというわけで、紅葉の仕組みを簡単に解説。葉っぱの中で色素がいろいろな動きをしているようだ。そして参加者が園内で見つけたきれいな葉っぱを集めて準備しておいたフエルト地の上で並べてみました。黒い生地の上で緑も黄色も真っ赤な葉も予想以上に映えてその美しさにみんな感動していたようです。500本のモミジが植樹されているというこの場所は私有地で、地主さんのご厚意で公開しているという。管理も大変だろうな。

もみじ山を出ると下流部の水路、バラ園を通って最終地点の鑑賞植物園へ。鑑賞植物園を楽しんで帰られた参加者もいらっしゃいました。

広報媒体を絞ったため参加者の数は少なかったが、狭い石道を歩くのにはちょうどよい人数でした。イノコヅチ、アメリカセンダングサ、オナモミ、ヌスビトハギといったくっつき虫も多かった。またムクノキの葉を丸裸にしてしまう虫、クズの葉の不思議な形の食痕やシロダモに作られる虫こぶの話などもしたかったところですが、時間切れ。

観察会の終了は鑑賞植物園。13℃に届かない寒い日でしたが見事な紅葉と湿地の植物を観察できました。

落ち葉を布に並べて…紅葉の色を観察